

DATA FILE



斜方晶系

名前	SULFUR (サルファー) / 自然硫黄
化学組成	S
色	黄色、褐色
光沢	樹脂光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断面	貝殻状
硬度	1.5 ~ 2.5
比重	2.1

自然硫黄

SULFUR

結晶は黄色や褐色で、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

樹脂光沢を持ち、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

イタリアで産出した自然硫黄の結晶。

火山の噴気孔周囲や、
蒸発岩の堆積層、火山岩の空隙などから産する。

板状や両錐体の結晶で産することが多いが、粉末状の皮膜をつくることもある。

クリストバル石、明ばん石、黄鉄鉱などと共生する。



▼両錐体結晶で産した
自然硫黄。

シ 自然硫黄



大きな標本

世界最大の自然硫黄は、イタリアのウルビーノにあるペルティカーラで産出した。大きさ22×16×11センチ、重さ5キロのこの標本は、現在はミラノの自然史博物館に展示されている。また、アメリカのニューヨークにあるアメリカ自然史博物館では、イタリアのシチリア島で発見された14×13×8センチの結晶を見ることができる。

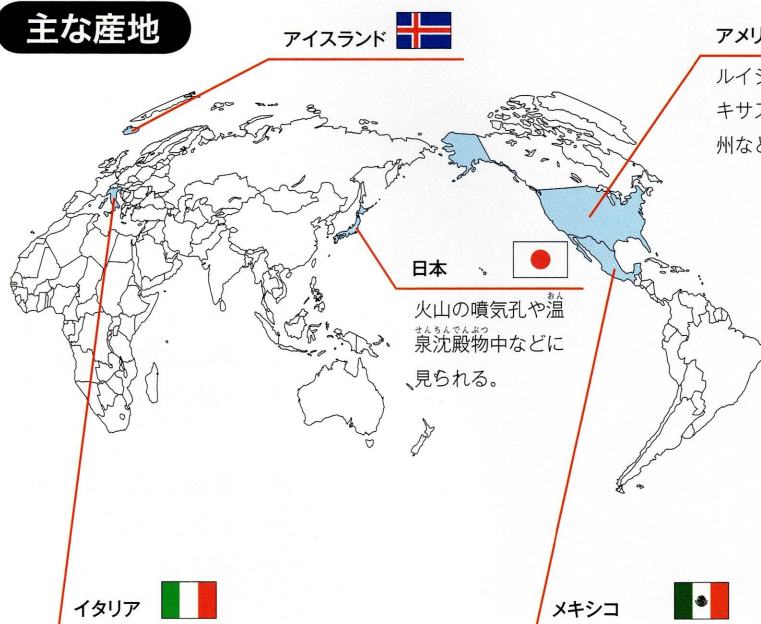
火山ガスから昇華

1777年にフランスの化学者アントワヌ・ローラン・ラボワジェ(1743～1794年)によって元素鉱物の一種であることが証明された自然硫黄は、主に火山活動で放出される揮発性ガスから昇華し、噴気孔の周囲に微細な結晶であられる。火山国である日本ではふつうに見られる鉱物で、温泉中からも見つかるが、大きな結晶は産出しない。そのほかの産状は蒸発岩の堆積層や火山岩の空隙などで、結晶は板状または両錐体になることが多く、火にかざすと溶けて硫黄特有の臭いを発する。



▲北海道の蘭越町にある大湯沼では、中空の球状になった自然硫黄が温泉の水面を漂っている。

主な産地



アイスランド

アメリカ

ルイジアナ州、テキサス州、ハワイ州などで産する。

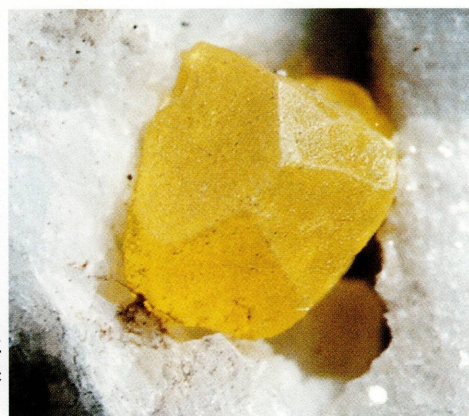
日本

火山の噴気孔や温泉沈殿物中などに、見られる。

イタリア

質の良い結晶が産出する。

メキシコ



▶大理石の上に生成した自然硫黄の結晶。

硫黄の用途

非金属元素の硫黄は主に硫酸の原料となり、洗剤、肥料、塗料などの製造に用いられている。硫黄を昇華させて得られる黄色い粉末状のものは「硫黄華」と呼ばれ、農業として有用。そのほか、ゴム製品の強化処理剤に利用されるなど、産業的用途は幅広い。